

# 五小っ子

平成30年度 学校便り第23号 (2月25日)

島原市立第五小学校  
校長 永田 俊文



いのち **学校教育目標**  
『生命を大切にし、進んで学ぶ  
心身ともにたくましい子どもを育成する』  
○やさしさいっぱい ○かしこさいっぱい ○たくましさいっぱい  
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切にし、全職員で力を  
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

## 春の足音が

梅の木にメジロが来る頃となりました。これから三寒四温を繰り返  
し少しずつ春に近づいていきます。



さて、6年生が登校する日数も16日となりました。卒業式の  
練習も始まり、小学校生活のゴールが近づいています。

『五小史上最高の6年生になろう』の合い言葉で、朝ボウをはじ  
めとした「当たり前」の事を当たり前出来る高学年のお手本を  
示し、本校の良き伝統を後輩へと引き継いでいる6年生を見てい  
るとユズリハという木を思い出します。

ユズリハは、春に枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲  
るように落葉します。

その様子を、親が子を育てて家が代々続いていくように見立て  
て縁起物とされ、正月の飾りや庭木に使われています。

この木は冬の間中、寒さにじーっと耐えて元気な青々とした葉を枝に付けているのですが、  
暖かくなった春になると、その葉がぼろりと落ちるのです。

そして、その落ちた葉の後には、次に出てくる若い芽がちゃんと育っているのです。この  
古い葉は、冬の寒さから若い芽を守って自分の役割を終えて落ちていくのです。その姿が  
自分の命を次の葉にゆずっていくということで「ユズリハ（譲り葉）」と名付けられたそう  
です。以前は、6年生の国語の教科書にも掲載されていました。

## 『ゆずり葉』 河井 酔茗 (かわい すいめい)

子どもたちよ、これはゆずり葉の木です。このゆずり葉は新しい葉ができると入れかわ  
って古い葉が落ちてしまうのです。こんなに厚い葉こんなに大きい葉でも新しい葉ができ  
るとむぞうさに落ちる。新しい葉に命をゆずって――

子どもたちよ、おまえたちは何をほしがらないでもすべてのものがおまえたちにゆずら  
れるのです。太陽のめぐるかぎりゆずられるものは絶えません。

かがやける大都会もそっくりおまえたちがゆずり受けるのです。読みきれないほどの書物  
もみんなおまえたちの手に受け取るのです。幸福なる子どもたちよ、おまえたちの手はまだ  
小さいけれど――

世のおとうさん、おかあさんたちは何一つ持ってゆかない。みんなおまえたちにゆず  
ってゆくために命あるもの、よいもの、美しいものをいっしょうけんめいにつくっています。  
今おまえたちは気がつかないけれどひとりでいのちはのびる。鳥のようにうたい花のよ  
うに笑っている間に気がついてきます。そしたら子どもたちよ、もう一度ゆずり葉の木の  
下に立ってゆずり葉を見るときがくるでしょう。

今週は、県立高等学校の卒業式が一堂に行われます。  
『高等学校の校長は学校だよりでどんなメッセージを伝えるのだろうか?』と思い、  
母校である島原高等学校HPを見てみました。2年前のことです。小学校からの幼  
馴染みである野田校長(現長崎東高校校長)の人柄が溢れたメッセージにこみ上げ  
るものを感じました。本人の了解も得ていますので、皆様にも紹介します。

## 今度いつ帰る

校長 野田 定延

♪元気であるか 街には慣れたか 友達できたか♪  
シンガーソングライターさだまささんの「案山子」という楽曲の歌い出しです。私  
が高校3年生の秋に発表され、大学時代によく聴きました。大学進学と同時に島原を  
離れ、福岡でひとり暮らしをはじめた私には、深く心に響くものがありました。高校  
卒業後に島原を離れる朝は、島原港から高速船に乗り福岡に向かうことになっていま  
した。自宅から島原港まではタクシーで行きました。

私は「そしたら今から福岡に行くけん。」と母に言って、タクシーに乗り込みまし  
た。タクシーが動き出すと同時に、私は、母が涙を流すのを見ました。それは、私が  
初めて見た母の涙でした。我が子を外に出す寂しさなのか、高校を立派に卒業した我  
が子が巣立つ喜びか、その涙の意味はよく分かりませんでした。なんとなく大学で  
は頑張らねばという思いが湧いてきたのを覚えています。大学在学中、たまに母に電  
話をかけると、必ず「風邪は引いたらんか? 今度いつ帰ってくとなあ。」という声  
をかけてくれました。それは、私の中で「案山子」の歌詞♪寂しかないか お金はあ  
るか 今度いつ帰る♪と重なるものでした。

母が亡くなって久しい今、あの時の涙の意味を尋ねることは叶いませんが、あの涙  
が当時大学生だった私の心の支えになったことは確かです。

69回生の皆さん、いよいよ卒業ですね。親のことばや涙は誰にとってもかけがえ  
のないものです。皆さんが経済的にも精神的にも自立するのは、まだ先のことになる  
でしょう。これからしばらくは、育ててくれた親への依存が続いていくことになりま  
す。親の思いやことばをしっかりと受け止めて生きていって欲しいと思います。♪手  
紙が無理なら 電話でもいい 金頼むの一言でもいいおまへの帰りを 待ちわびる おふ  
くろに聞かせてやってくれ♪メールやLINE が隆盛の時代ですが、電話で皆さん  
自身の声を聴かせるのがいいに決まっています。

私も大学時代、母から届く荷物がとても嬉しかった。今は、写真の中の母の声を  
聞くことは出来ませんが、この幼馴染みの文章を読むと聞こえてきそうな気がして  
ならないのです。

さあ今日も、子どもたちにいっぱい声をかけて元気にしてあげたいと思います。



足ぶみ  
金子 みすゞ  
わらびみたよな雲が出て  
空には春がきましたよ  
ひとりで青空みていたら  
ひとりで足ぶみしましたよ  
ひとりで足ぶみしていたら  
ひとりでわらえてきましたよ  
ひとりでわらってしていたら  
だれかがわらってきましたよ  
からたちかきねが芽をふいて  
小みちにも春がきましたよ